

第4回 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会会議録

1 日 時 平成25年1月15日(火) 午後2時から午後4時

2 会 場 男女平等推進センター 多目的ホール

3 出席者

		氏 名	出 欠
教 育 振 興 基 本 計 画 策 定 検 討 委 員	学識経験者	小林 福太郎 (委員長)	出 席
		朝岡 幸彦 (副委員長)	出 席
		沢崎 俊之	出 席
		壺内 明	出 席
	関係団体代表者	金木 多加志	欠 席
		金子 昌男	欠 席
		大谷 隆興	出 席
		町山 芳夫	出 席
		小川 正春	出 席
		丸山 均	欠 席
		腰塚 幸男	出 席
		大島 英樹	欠 席
		酒井 榮一	出 席
		長田 宏	出 席
		八木 信子	出 席
		石川 雄一	出 席
	公募委員	佐々木 定治	出 席
		鈴木 奈保美	出 席
		森 健	出 席
	学校関係者	渡邊 正弘	出 席
殿村 靖廣		出 席	
竹浪 隆良		出 席	
区職員	濱 中 輝	欠 席	
	坂田 祐次	欠 席	

○委員長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから教育振興基本計画策定検討委員会第4回を開会させていただきます。

本日は皆さん、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。これから2時間の審議をよろしくお願いいたします。

早速次第に沿って議事を進行してまいりたいと思いますが、その前に事務局より連絡事項がございます。事務局、よろしくお願いいたします。

○教育計画推進担当課長 昨日大雪が降りまして足元のおぼつかない中、どうもありがとうございました。

まず本日の欠席の状態でございます。金子委員と丸山委員と大島委員がご都合により欠席となっております。

また、本日の交通事情によりまして小川委員、町山委員、沢崎委員の3名の方につきましては、30分から40分ぐらい遅れられるというご連絡をいただいております。

あと欠席委員といたしましては、私ども教育委員会事務局の濱中委員と坂田委員が欠席でございます。

本日の傍聴でございますけれども、いらっしゃいませんので、そのまま始めたいと思っております。

また本日はグループワークが中心でありますので、あらかじめ班ごとにお座りいただいているという状態になってございます。

それでは資料の確認をさせていただきます。

まず1枚目といたしまして本日の次第でございます。1枚めくっていただきまして右肩上に資料1と書いてございます「第4回葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会グループ討議について」というものが1枚でございます。また1枚めくっていただきまして、葛飾区振興計画の会議録です。

また、水色のものがございますけれども、葛飾区教育振興計画策定に係るアンケート調査の結果報告書、こちらのほうがお手元にあるかと思えます。

それ以外に、葛飾区基本計画の概要版。

あと本日のグループ討議の名簿というような形で、最後になりますけれども、次回でございますが、第5回の葛飾区教育計画策定検討委員会の開催について、3月27日の開催に係る本委員会のご案内をお手元のほうにご用意させていただいております。

以上7点でございます。

本日は皆様委員の間に、グループワークを中心として進行を予定しておりますので、私ども事務局のほうは、若林、岡部指導室長、志村指導室統括指導主事、また今井生

涯学習課長以外は欠席とさせていただきますのでご了承いただきますようお願いいたします。

連絡事項は以上になります。

○委員長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明で何かご不明な点がございましたでしょうか。

それでは早速、次第の2「グループ討議」について事務局より説明をお願いいたします。

○教育計画推進担当課長 これから、計画に盛り込むべき内容につきまして、皆様から多くのご意見を伺いたいと考えてございます。

先日、ご郵送で送らせていただいたような形で、考えていくという次第でございます。

私どもといたしましては、第2回のグループ討議におきまして、葛飾区の教育における学校教育について、また地域教育について、3点目として社会教育についてという形で三つのテーマで、大きなくくりでご意見をいただきました。

また前回でございますが、駆け足的な会議になりご迷惑をおかけしましたが、そちらの中でも幾つかの貴重なご意見をいただいたところでございます。

このような形で、今まで検討してきた中で事務局の私どものほうで整理取りまとめてみたところ、先日のお手紙で書かせていただいたように、五つほど大きな視点があるのかなと思っている次第でございます。

一つは、教育の質の向上。子どもたちの学力のさらなる向上を目指すということ。

二つ目といたしましては、葛飾の強みを教育に活かすということ。子どもたちの夢を育み、子どもたちに自信を持たせるための取り組み。

三つ目といたしましては、学校というものの存在を見直して再構築していく。地域の中の学校という機能の充実をしていくということ。

四つ目といたしまして、子どもたちの自尊心の醸成ということで、相手を尊重することができる心を育む家庭教育では、交流・連携などを充実するというようなこと。

五つ目の視点といたしましては、生涯にわたる学びを育てるということで、共に学んで、または学びを地域の中で生かしていくというような五つのことが、皆様からいろいろな形でお話をいただいたかなと思っている次第でございます。

こちらのようないくつかの視点に基づきまして、次回3月でございますけれども、計画としての方向性とか体系を、大きな流れとしてご検討いただきますようお願いしたいと存じます。本日三つお願いするテーマにつきましては、これまで幾つかお話をいただいているのですが、あまり多くのご意見をいただけていなかったりするテーマです。今回特

をお願いしているのは葛飾のよさとか、葛飾の強みというようなことで、何となくイメージとしてはわかるのですが、これがそうだよねというような形でもう少し具体的なご意見をいただきたいというお願いがございます。

また2点目といたしまして、地域における学校の機能、役割、3点目といたしまして、生涯学習の振興策ということテーマとしてご意見を伺いたいと思っております。

合図がありましたらテーマを変えて、お話ししていただくという形で、グループ討議を開催いたしまして、30分ごとに合図させていただきますので、三つのテーマをそれぞれ変えてお話をいただきたいと考えてございます。

テーマの順番等につきましては、グループリーダーのお考えにより、どちらから始めていただいても結構でございますので、そのような形でお願いしたいと思います。

また1番目、2番目のテーマを終えましたところで5分程度の休憩を挟み、また引き続きやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

また私ども事務局のほうで、各グループごとに書記を務めさせていただきますのでよろしくお願したいと思います。

あと、今日お話いただく三つのテーマ①「葛飾区」のよさ、強みは何か、②地域にある小学校、中学校は、地域の皆様にとってどんな存在か、③区民一人ひとりが健康でいきいき暮らし、地域でのつながりを深めていくためには、どのような学びやスポーツの振興策が必要か、という形でお手元に資料を用意させていただきます。今回のグループの司会でございますが、3班のA委員が遅れるとの連絡がありましたので、誠に申しわけございませんがB委員にグループリーダーをお願いしてございますので、ぜひよろしくお願したいと思います。

それでは申し訳ございませんが、私からの説明はこれまでにさせていただきます、各グループ討議のほうをよろしくお願したいと思います。

以上になります。

(グループ討議)

○教育計画推進担当課長 ではグループ討議について、5分程度ぐらいでお話ししていただけるとうれしいのですが、よろしくお願いたします。

○委員長 それでは、私どもの班のほうからお話をさせていただきたいと思っております。

1点目、「葛飾区」のよさとか、強みということについてどのようなことが出たかということなのですが、学校メンバーのほうからは、子どもたちは非常に素直で純粋な面があるという内面。そういう良さをこれからも生かしていく必要があるだろうと。

また葛飾区では歴史と伝統、伝統工芸の質の高さというのが際立っているのです、こういうものを教育とどう結びつけていけるか。

ほかにも、葛飾区民は人情が厚いとか、または今でも、数は少なくとも農業がしっかりと行われているとか。また、観光の拠点になりつつあるとか、そういう良さがあるだろうと。

また、親子三代で場合によっては四代で、地元の小学校に通っているというケースもあり、そうした地元意識。こういうものも教育に今後活かすことも考えられるのではないかと。さらには、葛飾区の昔からの良さは、住民同士が仲がいいのだという。人のつながりというものは、ほかの地区でもそういう点もあるだろうけれども、やっぱり葛飾に住み続けてそういうところを実感されているという、大変貴重なご意見をいただきました。子ども会とのかかわり、育成団体とのかかわり、そういう点では、人のつながりというものを大事にする葛飾区というものをこれからもこういった計画の中に、人材育成という広い意味でもあるので、そういうものも含めて、ぜひ計画の中に今幾つか申し上げたものがキーワードとして、または中身として散りばめられていただければなど、そんなお話でございました。

2番目の地域にある小中学校の存在、地域の核としてということなのですが、やはり学校は子どもたちを、地域は子どもを見守ることが大切なのだとということで、葛飾区では数年前から中学校の部活動の顧問を、社会体育団体の方々が担っていると。これは3番目のテーマですね、失礼しました。

そのほか、防災の拠点とか、またはそれぞれの日常の生活の中でつながれていくのが非常に重要であると。ただ、今幾つかお話しした中で、どうしても校舎が新しくするには時間がかかる。しかし、いわゆる地域とのつながりを活かした新しい施設というものはどうできるのだろうか。

また、学区域と地区委員会とのリンクの問題。こういうものがある程度整理されると、もっとスムーズに活動できるのではないかとというようなことが出てまいりました。

いずれにしても、この地域と学校を結びつけるということについては、この計画云々が主張して、いろいろ今、ネックとなっている「ずれ」というのでしょうか。そういう制度のさまざまなことをもっとスムーズにできるようにしていければいいのではないかとのお話が出ました。

それから3点目の地域とのつながりを深めていくために、どういった振興策が必要かということなのですが、大きく一つは、社会の中でボランティア活動していくことが小学生や中学生に非常に有効であると。しかし、その根底には異年齢集団との交わ

りというものがある。異年齢集団の学びという部分も、もっといろいろな場面で行っていくことが必要である。それから、私さっきちょっと申し上げましたが、地元のスポーツクラブ団体の方が実際に中学校の部活動の顧問を引き受けていただいて、そういう条件整備は全国の中でも葛飾区が先駆けで行っているの、中学校のクラブの振興にもこういった面で非常に役に立っているの、これから活かしていく。

特に最後に意見が集中したのが、葛飾区での挨拶運動のこと。今が悪いという意味ではなくて、今もそれぞれの地域でさまざまな取り組みが進められていると。こういった計画の中で、葛飾区の子どもたちは挨拶がしっかりとできるのだというような方向で、さまざまな方法についてはその地域や地区や、それから学校のそれぞれの取り組みに委ねるとしても、ぜひこの挨拶ということをキーワードに、こういった計画の策定を進めてはどうかというような、そういうような意見もございました。

少し細かい部分ですけれども、とても大事なことで、やはり地域の祭礼を通して、お祭りを通して地域とつながるといふふうに、それは今までなかったけれども新たに始めてみると、それは子どもだけではなくて地域の方、そして教師、大人も非常にスムーズに交わって、大変良い結果が出てきていると。そういう点で、まだまだいろいろな面で工夫や実践が期待できるのではないかとというような意見もございました。

大変まとまりのない報告でございますが、以上でございます。

○副委員長 第2グループです。

第2グループは、意図したわけではないのですが、1から3をなし崩し的につなげて話を流しておりますので、あえて分けずにお話をさせていただきます。

まず最初に葛飾区のよさというのは何でしょうねという話をしたときに、やっぱり非常に共通しているのは、下町風といいますか、みんな地縁があって、ご近所づきあいをしているというのがまだ残っている。みんながみんなやっているのではないとは思いますが、そういう文化が葛飾にはあって、それが人情だとか助け合いとかにも出ているのではないかと。それで、たまたま雪が降ったものですから、雪かきをどうしたとか話が出ていて、それはそういう形で自然につながれるというのは大事な財産なのではないかと。そういう地縁をもとにしたつながりをもう1回見直せないだろうか。もちろん葛飾44万人もおりますので、新しい住民がいたりしてなかなか地縁に入っていけないわけです。むしろ積極的に地縁を広げるような方法はないだろうかという話をしていたときに、葛飾区には子ども会組織というものがあると。しかし私はちょっと誤解していたのですが、子ども会組織は学校やPTAにつながっているのではなくて、町会につながっていると。ですから町会と一緒に、加入率はどんどん下がっているけれども、子ども会組織をもう一度見直してやったらどうか。こうい

う話が出たのですね。できれば、子ども会はいろいろな負担もあるけれども、できるだけ負担を軽くし、いろいろな会議をしながら地域の子どもたちや親御さんみんなが入れるような子ども会というようなことが考えられないだろうかという話が出ました。

その鍵を握るのは、やはり学校と子ども会がどうつながっていくかというのが一つのポイントではないかという話になりました。その流れの中で、学校に限定する必要は必ずしもないのですけれども、もう一度学校を中心として地域がどうつながっていくかというアイデアがあるのではないかという話が出てきました。これを、ちょうどいい言葉を出していただいたのですが、地縁、血縁と並んで「学校縁」というのがあるのではないかと。これは学校の庭という意味ではないわけですが、学校を通じた縁というものをうまく育てることによって、地域の人たちがもう一度つながっていくのではないかという可能性が議論されました。

ただこれは先ほど言いましたように、学校以前からそういう縁というものが存在するわけで、幼稚園、保育所から、場合によっては公園デビューからも含めてあるわけで、そういうふうにと考えると「子縁」といいますか孫縁、子育て縁というような、そういうレベルで子どもを軸にして親や地域の人たちがつながっていくという、そういう考え方があるのかもしれないという話になったわけです。

むしろ、そういう幅広い子どもを一つの軸にしなが、地域の人たちがつながっていく。こういうことがあり得るのだと。

そのときに学校の機能についてももう一度考え直したときに、実は今も話にあるように、学校が地域でいろいろな人間関係をつくっていく上で非常に重要な働きをしているのではないかという話になりました。つまり、これはPTAのように、子どもを学校に通わせている親御さんのつながりだけで終わらずに、そこを卒業してもいろいろな形でつながっていく可能性というものが学校にはあるのではないかという話です。

もう一つが、やはり施設としての学校というものをちゃんと続けたほうがいいのではないかという話です。それは防災や安全上の問題も含めて、いろいろと公共施設が分散して、いざというときどこに行けばいいかというよりは、みんな学校に行くものだというふう考えたほうが、地域の人たちもいろいろな安全性が高まるし、地域の人たちが頻繁に出入りできるようになれば、子どもたちの安全も図れるのではないかと。そういういろいろな意味をもって、学校というものを見直していこうではないかという話になりました。

ただ、そこで大事なことは、それだけ学校が鍵を握っていると考えると、学校は誰のためにあるのかということをおぼえてしまうといけな。やっぱり学校というのは子

どもたちの利益を中心に、これは学校に限らないのでしょうけれども、教育機関、施設は、子どもたちの利益を優先するというを前提にしてみんなが結びついていけたらと。これをボタンのかけ違いをしないといけないだろうという意見が出ました。

そのうえで、学校の施設の建てかえ、改修もありますので、積極的に学校に、地域のいろいろな人たちが出入りし、使えるようにしようという話がありました。しかしどうもこういう議論の仕方をする、シニアの問題が抜け落ちているのではないかと。むしろ子どもという限定はつけなくても、高齢者や大人自身が地域でつながっていく。学校であろうがなかろうが、つながっていくことも考えるべきではないかという話がありましたし、また共稼ぎを含め、家庭支援というものがどうも上滑りしているのではないかと。もっと区民の子育ての実態に合わせて、どういう家庭教育シーンができるのかということも丁寧に考えた方がいいという話があって時間切れとなりました。

以上です。

OB委員 それでは、第3グループのほうから要旨を発表させていただきます。

まず葛飾のよさ、強みは何か。それから強みを子どもたちの教育に活かすにはということで、第1のテーマについて30分ほど討論を行いました。

やはり葛飾、先ほどお話が出てまいりましたように、下町の人情味といいますか、庶民的であるとか、それから人間味があると。そういう良さがありますし、それから自然環境も菖蒲園とか、あるいは柴又とか、水元公園とか、いっぱいある。そういうものを何とかして教育にも活用できないかというような話が出てまいりました。

今、学校教育、どこの地区でもそうですが、所属感、学校に対する所属感といいますか、地域に対する所属感、これがだんだん時代とともに希薄化してきている。しかしながら、今が非常に大事だよという話も出てまいりました。人づきあい、それからイベントも含めて、何とか学校と地域の連携も含めた形で再生できないかというような話をしてまいりました。

その中で強みも出てきまして、わくチャレですね。反対のある方も当然いると思いますが、大方賛成だと。これをぜひ続けて、充実したものにしてほしいと、そういううれしい話ですね。委員さんの中でも出てまいりましたし、あるいはまた、高校側のほうから、私の通っていた学校では、高校生は、地元から通っている、葛飾区内から通っているお子さんがとても多い。それから将来地元で勤めたい、そういう子どもたちがいることを決して忘れてはいけないとのお話でした。これも、やはり葛飾の一つの大きな強みなのかなと、そのように受け取らせていただきました。

それからもう一つ強みですが、ちょうど金町地域に東京理科大学という理科系の専門の大学がもう来つつあるということで、その活用をぜひ、子どもたちの理科教育の

教室を。まさに今回の学習指導要領では、言語活動の充実に引き続いて理数教育の充実、この二つが大きな重点事項になっております。この理数教育の充実を葛飾区で。やはり他区と違った重点施策の一つとして、何とかやろうと。そういうことも話がありました。

理科の先生側からの人材確保はもちろんのこと、今の先生方、当然実技教科ですので、授業時数が国語あるいは算数とか数学よりも若干少ないです。教室で行う授業から理科室で行う授業への転換ということで、理科室の環境整備。昔、平成元年前のものが理科室の中に存在しているという事態、これがあります。ということは、薬品等がいっぱいありますので、素人はちょっと、触ることができません。専門家に見ていただいて理科室の充実改良といたしますか、その辺からぜひ大学との連携は教室からということで教員研修はもちろんのことなのですが、子どもたち一人一人に合った、理数科、ノーベル賞ではありませんけれども、そういうものを目指した施策を講じてほしいというお話もありました。

二つ目でございますが、「地域にある小学校、中学校は、地域の皆様にとってどんな存在か」、そしてまた「地域の核として位置する学校にはどのような機能が求められるのか」ということで、やはり学校そのものは、地域の財産であるということが大前提だという話、さっきも委員さんから出てまいりました。まさしくそうであろうと思います。今回の大震災を経験して、防災訓練とか避難所、それからやはり選挙、そのときはこんなに身近に感じるのだな。それが今でもやはり学校の財産を地域と共有するために、具体的な施策といたしますか、そういうものをぜひ提案をするとともに考えてほしいという案が出てまいりました。

小学校は110周年。100年を超える学校が区内にも数校あるということで、やはり葛飾区は23区内の中でも何区かあると思いますが、比較的歴史のある学校がとても多い。先ほどのお話の中で、四代続いているという親子がその小学校を卒業している。そういうことからしても、ぜひ地域の財産それから学校の伝統文化を生かしたものを、そういう具体的なものを、意見を聞きながら進めていただきたい。さらにこれが革新的な今日のお話だったのですが、学校と地域をつなぐもの、委員さんのほうから一つの事例として、地域コーディネーターですね。学習に対する地域の皆さんの教育関係、その他、そんな人が周りにいっぱいいるのですが、そのコーディネーター的な存在が地域と学校をつなぐパイプ役。学校は今、窓口が全て校長先生、副校長に任せられている、あるいは一部の教員ですね。非常に多忙極まりないという学校の現状を考えて、ぜひともこの地域コーディネーターを創設して、パイプ役、潤滑油といたしますか、この辺の地域の情報あるいは学校の情報をぜひ。学校が形だけ「地域の皆さん、どうぞ

来てください」ではなくて、足で稼いで、お互いにコーディネーターといいますか、そういう人の育成を図ることができないか。そういう意見が具体的に出てまいりまして、「うんなるほど、これが結論か」というわけですね。

やはり私どもの地域の核として位置する学校にはどのような機能ということで、地域と学校をつなぐ大きなキーワードがそういうコーディネーターの話ということになりました。

三つ目でございますが、学びやスポーツの振興策が地域でのつながりを深めていくために必要かということで、スポーツクラブ、いっぱいありますが、葛飾区地域スポーツクラブについて委員の方から説明があり、ああなるほどなということで、ぜひ区の行政サイドでも予算と仕組みづくりについて、さらなる応援をよろしくお願ひしたいと同時に、地域コミュニティとして運営方法をちゃんとやっていっていきたい。今、高校生が、異年齢集団というのですか。小学校、中学校、高校の連携ということで高校生が小中学生に教えていくという、そういう機会を設けています。そういうのをぜひ小中の中でも、地域にある小学校、中学校連携いろいろ深められていると思いますが、そういうものもさらに進めていただければうれしかないと、そういうご意見をいただきました。

いずれにしてもいろいろな学びや、スポーツ関係について学校の現状を踏まえて、取り組んでいただけたらうれしかないと、そういうご意見が出ましたことお知らせしておきます。

私は今日、A委員のかわりに話をしました。A委員、ちょっとありましたらお願いいたします。

○A委員 学校外施設について。

地域スポーツクラブについては、私も初めて詳しく委員から説明を聞いて、葛飾区内には二つあるのですけども、それから七つくらいできるという計画があって、そのくらいできると、自分の住んでいるところから気楽に行けるというふうになるので、長い目で見てそういうふうに進めていけたらいいだろうなという話に、なるほどなと思いました。

目的としてスポーツにあまり縁のない人で、でも体づくりに興味があるような人をどうやって、すそ野を広げていくかという観点で考えていらっしゃるし、地域とのつながりをどうやって作っていくか、地域のコミュニティとして、どういう風にそのクラブを運営していくかということに尽力されているのをすごく感心して聞いておりました。

入り口としてはスポーツに限らず、かるた大会のような、いろいろなことを考えた

りして、そういう入り口を通してまたスポーツにという工夫もされているというので、運営スタッフはすごく努力されているので、行政のほうもそれに必要な支援をしていただきたいということを私自身も思いました。

以上です。

○委員長 皆様、いろいろありがとうございました。

貴重なご意見をたくさんいただきましたので、本日については皆様のご意見を事務局に整理をしていただきまして、次回からの検討事項に活かしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは予定していた議題は以上でございます。ここで事務局からご連絡いただければと思います。

○教育計画推進担当課長 次回の開催につきましてご案内させていただきます。

第5回は3月27日の水曜日。時間のほうは午前10時です。会場は本日と同じくこちらのウィメンズパル1階の多目的ホールを予定しております。

年度末のお忙しい時期とは思いますが、ご出席よろしくお願ひします。初めて午前中にやりますのでお時間のお間違えのないようによろしくお願ひしたいと思ひます。

次回から委員皆様のご意見をもとに、計画の根幹となります方向性や体系についてご提示させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からの連絡は以上です。

○委員長 それでは委員の皆様、本日はありがとうございました。

以上をもちまして閉会とさせていただきます。

また次回よろしくお願ひいたします。